

いえしまDays

7月25日(火) ~ 7月28日(金)

IN 兵庫県立いえしま自然体験センター

	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発	オリエンテーション <島での過ごし方>	振り返り
2日目	オリエンテーション <魚の獲り方について>	自給自足生活	振り返り
3日目	自給自足生活	自給自足生活 いえしまリレー対決	振り返り
4日目	清掃	施設を出発・解散	

一日目: おはようございます!! 今日から“いえしま”にて島暮らしの始まりです。電車、バス、船を乗り継ぎ、無事に施設に着きました。丘の上から見える景色に歓声があがり、これからのキャンプへの楽しみが沸き立ちました。昼食を済ませ、暑いので、水着に着替えて早速海へ向かいました。いえしまの海はとても澄んでおり、底が見えるほどキレイな海でした。海遊び後は、夕飯の貝を獲りに向かいました。現地で獲れるものは全て食べる事が出来ます。沢山収穫し、今晚の汁物に使用します。着替えて、夕飯づくりに取り掛かりました。今日から三日間全て自炊なので、火の起こし方、食材の切り方を学びました。初めての炊飯なのでかなり苦戦をしましたが、無事に完成しました。多少固かったり水気がありましたが、何度も調理を繰り返して、上達していきましょう。片付けを終え、入浴を済ませると、明日の予定を組みました。明日から本格的な島暮らしが始まります。のんびり、ゆったりスローライフを満喫しましょう。



二日目: 今日から自分達で考えた【島暮らし】のスタートです。朝食を済ませると、海遊びをするグループ、釣りをするグループに分かれて活動をしました。初めての釣り経験は思った以上に難しく、なかなか上手に釣る事が出来ません。そうした中で釣れた時、本当に嬉しそうな表情をさせていました。昼食づくりは様々な創作料理が伺えました。意見の食い違いで揉めているグループもありましたが、それでも火起こしや調理を手分けして行いました。味付けについても意見を出し合いました。午後からは暑くなってきたので、皆海遊びを楽しみました。夕方前の頃合いを見計り、海釣りに出掛けるグループもありました。野外炊飯でなかなか火が付かない事や、上手くスケジュールが進まないグループがあり、皆の動きに【鈍さ】が出てきています。そうした時には一度立ち止まり、話し合い、次に活かしていきましょう。夜は遅くまで明日に向けて話し合っておられました。



三日目: 三日目の朝も快晴で、雲一つない天候でした。どのグループも昨日よりもゆっくり起きてこられました。朝食を済ませると、グループごとで考えた一日を過ごしました。元気に海遊びに出掛けるグループや、お土産として貝殻を拾いをしたり、二度寝をしたりして過ごされていました。昼からは“いかだづくり”を予定しておりましたが、昼食に



予想以上の時間を要してしまったので、いかだづくりは出来ませんでした。代わりにグループ対抗の【リレー対決】をしました。キャンプで初めてのレクリエーションなので、皆いきいきと楽しそうな笑顔が伺えました。リレーの順位結果によって、景品としてお肉をもらうことが出来、夕飯づくりに活気が一層出ていました。五回目の炊飯なので、調理や火起こし、ご飯炊きの腕前は上達されており、どのグループも、「美味しい！！」と声が聞こえていました。美味しい食事についてもより早く作れた事で、和気あいあいとした食事雰囲気となっていました。夜はいつも振り返りをしたのですが、どのグループも一人一人の評価は高く、今回の三日間の頑張りが大いに反映されていたようです。



四日目： 今日退所の日なので、朝から忙しいです。布団やシーツの片付けから始まり、荷物の整理、片付け、部屋の清掃と朝食までにある程度終わらせました。ようやくの朝食で一息つくつと、再び片付けに入りました。借用した様々な道具をキレイに磨きます。【借りたときよりも美しく】をモットーに、徹底して磨き、洗いました。施設に返す際には、褒められる程キレイに磨けていたので、とても嬉しそうな表情をされていました。気が付けば昼食の時間になっていました。昼食は、最初で最後の『食堂利用』です。盛り付けられたおかずに感動をし、口に入れた瞬間に「美味しい！！」と笑顔がいっぱいでした。朝食を少な目にしていたのでおかわりをするほど、沢山いただきました。お腹いっぱいになるとついにお世話になった施設を出発します。所長に御礼を伝え、集合写真を撮り、行きに登ってきた丘を越えます。行きは弱音が沢山聞こえていましたが、帰り道は弱音は吐かず、友達との談笑があちこちから聞こえていました。港からフェリーに乗り、姫路港へと戻ってきました。ここでグループを解散し、各集合場所へと分かれましました。長いようであつという間だった【いえしまDays】に、別れを惜しむメンバーの姿が伺えました。本当にお疲れ様でした。



<キャンプ総括>

キャンプ中にこのような言葉を何度も聞きます。「こんなしんどいキャンプとは思わなかった…。」このキャンプは、一見のんびり、ゆったり過ごせる内容ですが、そこに偽りはありません。こちらから「あれしろ、これしろ。」と指示はなく、三日間自分達の好きなように過ごせるキャンプです。ただ、大きな勘違いをされています。皆さんが普段過ごされている環境下ではなく、あくまで【いえしまでの話】です。食事も与えられるものではなく、自分達で作らないといけません。それらを想定できず、日常の感覚をいえしまに持ち込むゆえに、そのギャップにやられます。このキャンプで唯一与えられる事は、最終日の【食堂】です。ここだけ想定できる環境なのですが、四日間そうではなかったため、食堂での食事がとてつもなく美味しく感じ、『感謝の気持ち』が芽生えます。これがこのキャンプで伝えたいことなのです。当たり前環境は決して当たり前ではなく、恵まれた環境であり、そこに感謝の気持ちを持って欲しいです。いえしまで体験した、自分達で与えられた時間を有効に使う自給自足生活から、沢山のことを学ばれたと思います。それらをブラッシュアップさせるためにも、是非、来年もご参加ください。ご参加お待ちしております。

(竹中 哲郎)